

河川

第一次、第二次緊急復旧工事で 浸水を未然に防止

○淀川左岸(西島地区)



緊急復旧状況

液状化により堤防没落、崩壊、

河川に関していえば、阪神大震災で大阪府や兵庫県など2府3県の8河川、計77か所の堤防で、崩壊やひび割れなどの被害が報告されていますが、中でももっとも深刻な被害を受けた地域は、淀川河口付近でした。ことに左岸の西島(とりしま)地区では、地盤の液状化により約2kmにわたって堤防が崩壊。もっともひどい所では、高さ約8mの堤防が3mも陥没してしまいました。幸い1月は水量の少ない時期で、堤防崩壊と同時に浸水するという被害はまぬがれたものの、残った堤防の高さが最悪のところでは、満潮時の水位より約1.5m高いだけという状況で、大雨などによる水位の上昇と満潮時が重なれば、水があふれ背後の民家に浸水しかねない危険な状態になっていました。

緊急盛土、シート養生、鋼矢板による二重締め切りで堤防高を確保

とにかく一刻も早く従来の堤防の高さを確保しなければならぬ。震災の当日(1月17日)から、昼夜24時間体制で第1次緊急復旧工事に着手。もとの堤防の高さまで約30,000㎡の土を緊急盛土し、シート養生をして浸水を防ぎました。

1月25日より開始した第2次緊急復旧工事も、引き

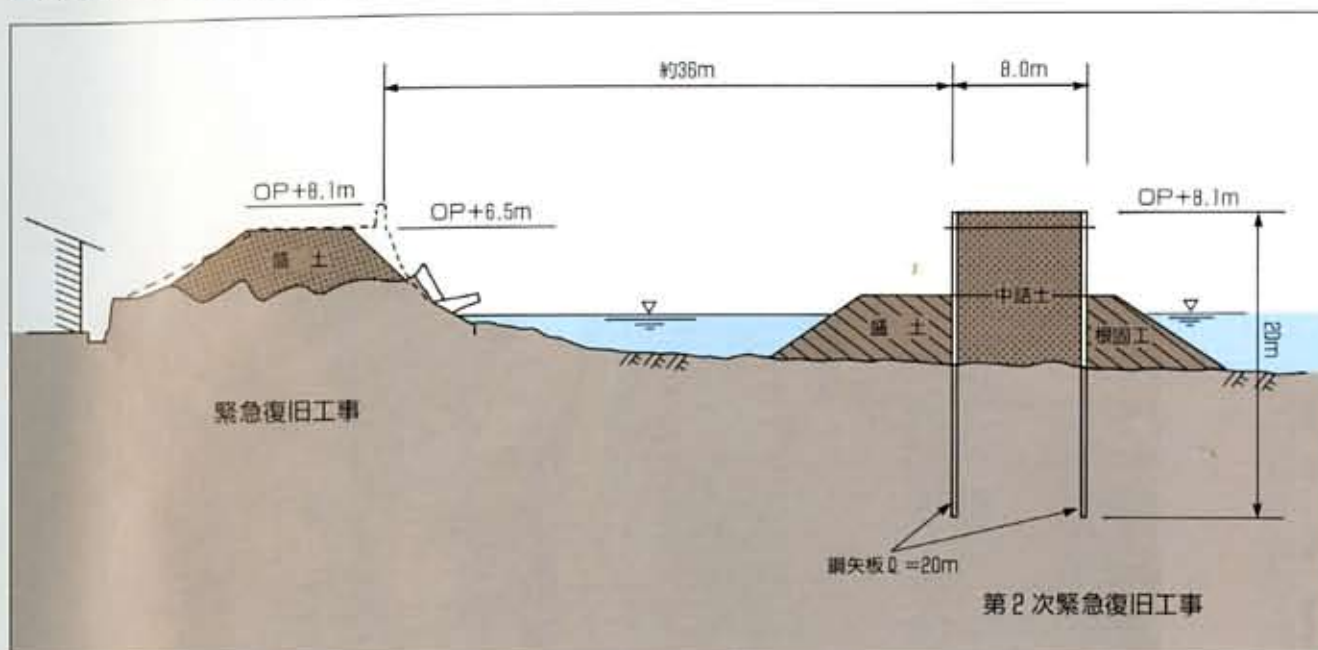
続き、昼夜24時間体制で進められました。河川の中、堤防から40mのところに約10,000枚の鋼矢板を打ち込んで二重締め切りを行い、中詰め、根詰め工を施して堤防を強化し(図参照)、本格的な雨のシーズン(出水期)に備えたのです。

より強く、より機能的な堤防づくり (スーパー堤防構造)に向けて

現在までのところ、緊急復旧工事は順調に推移し、すみやかな対応と昼夜を徹した集中作業で堤防崩壊による浸水などの二次災害を未然に防ぐことに成功しています。

堤防の幅を約300mにまで延長し、その上にマンション、公園などの住環境を整備し、堤防に都市機能を持たせるというスーパー堤防構造が検討されています。災害に対する強さ、地域の住環境の改善など幅広い見地から、淀川河口地域の新しい堤防のあり方に関する話し合いが行われています。

西島地区災害復旧工事(略図)



被災状況



緊急復旧状況



被災状況



緊急復旧状況